

1 主題構成表

主題名 正直に生きる

資料名 ぼくはMVP

<p>■内容項目A 正直, 誠実 過ちは素直に改め, 正直に明るい心で生活すること。</p>	<p>■内容項目から見た児童の実態</p>	<p>■資料の分析</p>
<p>■ 価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本内容項目の目指すものは、偽りなく正直に行動し、明るい心で楽しい生活を築いていこうとする心と態度を育てることである。 ・児童は皆、晴れ晴れとした気分でも明るく生活することを望んでいる。それには、うそをついたりごまかしたりせず、心に陰りのない生活を送ることが必要である。しかし、自分にとって都合が生じると、うそやごまかしによってその場をやり過ごそうとしがちである。これは誰にでもあることであるが、一時しのぎに過ぎないだけでなく、信用を失ったり、後悔や自責の念から心に傷を残したりすることにもなる。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さ、誠実な生き方であると言える。 ・この時期の児童は、活動的で仲間意識が強くなるとともに、判断力も高まってくる。この段階においては、他者に対するうそやごまかしがよくないことに加え、そのことが自分自身をも偽ることにつながると気付かせることが大切である。正直に行動できた時の清々しさや安堵感を自覚し、正直であるからこそそのびのびとした生活が実現できることを理解して、よりよい仲間関係を築く基盤を培いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童は、正直であることが大切であると理解しているが、実際にはうそをついたりごまかしたりする経験をしたことがある。 ・過ちや失敗をした時に、素直に認めたり謝ったりすることが難しい児童もいる。 ・周囲の仲間の不正には敏感で、責めたり批判したりすることがある。 <p>(要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叱られたくない、負けたくない、損をしたくないなどの気持ちが強く、ついごまかして都合から逃れようとしてしまう。 ・自分の利益やプライドを重んじる気持ちをコントロールすることができない。 ・自分を正当化したい思いの強さや、周囲に安易に同調する面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本教材は、正直に言うことは大切だと分かっているが、それを言い出せない主人公の心の葛藤を描いた内容である。 ・ドッジボールをしている時にボールが主人公の足をかすったが、誰にも気付かれることなく試合が進んでいく。アウトになって自ら外野に出るかどうか迷うが、周りの雰囲気流されてそのままゲームを続けてしまう。自分の活躍でチームは大逆転するが、友達からMVPだと称賛される主人公が、うしろめたさから一人だけ気が重くなる場面で終わっている。 ・本学級も、休み時間に好んでドッジボールを行う児童は多い。勝敗に強いこだわりをもつ時期でもあり、資料の内容や主人公の立場は理解しやすく、自分と重ね合わせるのに適した教材であると考えられる。 ・指導に当たっては、心の弱さに十分共感させながらも、そんな自分を否定し、後悔や自責の念だけで終わることのないよう配慮する。正直であろうとしている主人公のよさにも目を向けながら、自分自身を偽らない生き方をめざす意欲を高めたい。
<p>■ねらい 本当のことが言えずに悩む主人公の葛藤について考えることで、ごまかしは相手だけでなく自分の心にも嘘をつくことであり、みんなが嫌な思いになると気付く、仲間とともに明るく生活していくために、たとえ自分の不利益になることでも、自分を偽らず正直に行動しようとする態度を育てる。</p>		
<p>■研究内容に関わって</p> <p>【研究内容Ⅱ】仲間と考えを深め合い、自分自身を見つめることができる道徳授業のあり方 (1) 児童の学習状況を具体的に描いた指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MVPだと称賛されてうれしいはずなのに、ごまかしていたことで気が重くなっている主人公の心情を考える中で、「誰も気付いていないからよいのではないか」と問い返すことで、「自分自身に対して正直であることの大切さ」や「ごまかしてその場はやり過ごせても、後悔は続く」ことなど「正直」について、より多面的・多角的にとらえていく。 		

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇「正直」とはどのようなことかを考える。 ・(だれかに)うそをつかないこと。 ・悪いことをしたら(相手に)すぐに謝ること。 ・正直にすると、ほめられたりすっきりしたりする。	・漠然と理解している「正直に生きることの大切さ」を再確認するために、正直に行動した時の晴れ晴れとした気持ちを想起し、価値への方向付けを図る。
展開前段	◇資料「ぼくはMVP」を読み、「正直に生きる」ことについて考える。 ○「ぼく」がちょっとまよったのは、どんなことだろうか。 ・当たったのは事実だから外に出た方がいいな。 ・このまま続けるのはずるいな。 ・だれも気付いていないからこのままでいいかも。 ・今外に出たら負けてしまうな。 ⇒自分だって迷うと思う。 ◎MVPと言われた時の「ぼく」はどんな気持ちでいるのだろうか。 ・がんばってよかった、みんなも喜んでいてうれしい。 ・ごまかしていることが気になってもやもやする。 ・正直に言ってすっきりしたいけど言いづらい。 ・正直に言うと、みんながっかりするかもしれない。 ・今さら言ったらおこられるかもしれない。 ・正直に言えばみんなも分かってくれるかな。 ・あの時、すぐに言うておけばよかった。	・「MVP=最も活躍した選手」を確認して範読に入る。 ・当たった時に正直に外に出ようとした主人公の姿を「よき」として押さえることで「ぼく」に寄り添いやすくし、いけないと分かっているでもゲームを続けてしまう弱さへの共感を図る。 ・夢中になってゲームを続けて大活躍した状況を再度押さえ、MVPと言われた時の気分を想像させてから中心発問につなげる。 (ネームプレート： よい気分⇔重い気分) ・相手の気持ちや評価、ゲームの勝敗、周りの雰囲気など、いろいろな要因が難しさにつながっていることに気付けるよう、整理して板書に位置付ける。 ・ネームプレートを参考に意図的指名をし、「自分自身を偽っていること」「その場をやり過ごせても、後々までいやな思いが残ること」を、話し合いの中から気付けるようにする。
展開後段	【深めの発問】 ○誰も気付いていないし、みんな喜んでいるのだから、気にしなくてもよいのではないだろうか。 ・人は知らなくても、自分は知っているから気になる。 ・自分で自分にうそをついている。 ・いやな気持ちは、ずっと続くのかもしれない。 ○「ぼく」はこの後、どんなことを大切にしていこうだろうか。 ・ずっといやな気持ちが続くのは嫌だから、正直に言おうと思う。 ・自分が正しいと思ったことは、ごまかさないようにしようと思う。 【評価の視点】 深めの発問で、考えを揺さぶる問い返しをし、自分自身に目を向けさせることで、「正直であることの大切さ」についてより多面的・多角的にとらえている。	・とらえた価値をもとに、これからの「ぼく」の生き方について希望をもって考えることで、否定的に終わることなく、難しくても正直に行動できる自分になりたいという今後の意欲につなげたい。
終末	◇本時の授業で感じたことをもとに、自己を見つめる。 ○「正直に生きる」ということについて、感じたことを書こう。 ・ごまかしてしまうこともあるけど、自分も正直でいようとするよい心をもっているんだな。 ・正直に言うのは難しい時もあるけど、嫌な思いが続くのはつらいから、弱い心に負けないようにしたい。	・新しく気付いたこと、これからの自分に生かしたいことを観点として示す。 ・児童の記述の中からいくつかを紹介し、考えを広げる。
終末	◇教師の説話を聞く。 ○正直に行動できず、長い間後悔していることについて。	・軽はずみにごまかしたことが、ずっと心に重く残っている体験談を話し、正直に行動したいという心情を高める。

